

今日も「1」あがり♪

第38話

「特注対応」で
スマート農業を支えよ！の巻



みなさん、明けましておめでとう
ございます。新年早々インフルエン
ザA型で39・6度の高熱に悶え苦し
んでいるロボストス高垣でございま
す。床に伏せる僕の横でお掃除ロ
ボット「ルンバ」が元氣よく部屋を
ピカピカにしてくれています。

そう、風邪で寝込んでいても仕事
が回る時代が目の前まで来ていま
す。Googleの「農業」をニュース
検索すれば、ドローン、自動収穫ロ
ボット、水田水管理、環境データ分
析などの情報ばかり。3年前の展示
会ではクボタK S A Sのブースは閑
古鳥が鳴いていたのに、農業界はい



写真1：トプコン製オートステアの
装着例（ジョンディア6430R）



写真2：ニコトリンブル製オート
ステアの装着例（ヤンマーYT5113）



写真3：東京計器製オートステアの
装着例（ニューホランドTS100A）

つのかスマート農業一色！ 歓
迎すべき変化ですが、このスマート
農業ブームに軽さを感じているのは
僕だけでしょうか？ ロボットもア
プリも、どうも実績が乏しくカッコ
イイだけの机上のアイディアで溢れ
ている気がするんです。農業界で商
売を軌道に乗せるには黙々と現場で
成功事例を重ねるしか道はなく、人
間による泥臭い仕事が必要です。メ
ディアには、地道な積み重ねに耐え
て確かな実績を残した会社にごそ光
を当ててほしいんです。ということ
で、今月はこれまできちんと紹介し
てこなかった農業機械の自動操舵装

裏方の仕事は泥臭く スマートじゃなかった！

置、オートステアについてお話し
しましょう。



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大
田区の町工場街で育つ。2011年に
㈱ロボストスを創業し、農林水産業
機械のワンオフ対応を軸に、独自
のサービスを構築。A-1グランプリ
2011グランプリを受賞。群馬県を
拠点に、機械メーカー・ディーラー・
農協・農業生産法人など、全国的に
取引を拡大している。㈱ロボストス
代表取締役社長。

各メーカーから直進アシスト田植
機が販売され、ついに一般的に認知
されたオートステアリングシステ
ム。後付けできて、自動的に誤差3
cm以内で直進し続ける魔法のハンド
ルです。前後進に加えて自動旋回で
きるほど進化しました。国内企業で
言えば、日本の農業界を開拓したニ
コトリンブル。今やトップに迫る
勢いのトプコン。船舶の自動操舵で
名を馳せてきた東京計器。農研機構
の研究者が創業した農業情報設計社
などが凌ぎを削っています。各社の
オートステアを組み付けるためには
トラクターの型式ごとに異なる部品
が必要で、実は僕はそれを100種
近く作ってきたんです。とりわけ6
年以上前からトプコンとの関係は深
く、当時トリンブルが組み付け部品

がなく販売できていなかった国産ト
ラクターを対象に、ロボストスの部
品を実装することでともに市場を開
拓してきました。当時まだ20代だっ
たトプコンK藤さんと僕は、1台ず
つ農研機構の実験機をカスタマイズ
していったんです。売れ始めてから
は、マイナス20℃の真冬の屋外で、
蚊だらけの真夏の倉庫で、群馬から
オホーツクを日帰りで——どんな条
件でも確実に任務を遂行してきまし
た。トプコン北海道のT尾さんは何
カ月も家に帰らず寝袋で寝ながら組
み付け指導に奔走されていました。
間違いない言えるのは僕らの仕事は
決してスマートじゃなかったってこ
と！ 今後さまざまなスマート農業
を実現するために、裏方にスマート
とは言えない状況に置かれる人たち
は必ず出てくるので、ぜひ温かい声
をかけてあげてください（笑）。

スマート農業の花形アイテムを弊
社の「特注対応」技術でサポートで
きたことを誇らしく思いますし、第
三者として各社の戦略や業界の変化
を目の当たりにできて大変勉強に
なっています。ロボストスももっと
積極的にスマート農業に絡まな
い！ さて、ルンバの掃除も終わっ
たので、そろそろ起き上がりたいと
思います。ということ！ 今月は
100丁あがり〜〜〜